

日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3-6 電話24-2456

中国5県で一斉宣伝 広島で、大平前衆議院議員 岡山で、仁比前参議院議員

県委員長、県議、市議が 松江市内でそろって街頭へ

9月20日、中国ブロック一斉宣伝の一環として、後藤勝彦県委員長、尾村利成・大國陽介両県議会議員、橋よしあき、吉儀けいこ、田



中国ブロック一斉宣伝行動

中はじめの3市議が市内で街頭宣伝を行いました。最初に、後藤県委員長が、日本会議に名を連ねる右翼メンバーをそろえた安倍改造内閣の危険性を指摘し、改憲を許さず、来る総選挙で新しい政治をつくるために全力を尽くす決意を述べました。

原発稼働に市民は反対

橋祥朗市議の代表質問②

橋祥朗市議は代表質問で原発問題を取り上げ、
◇「福島原発は汚染水処理、核燃料デブリ取り出し作業が行き詰まり、廃炉の行程が描けていない」
◇「島根原発の使用済み核燃料の受け入れ先は満杯、

理解を深めるために民間による交流を続けるべきと市長の政治姿勢を質したと報告しました。
最後に尾村県議が、丸山新知事が県の施策の見直しを行っているが、小中学校の少人数学級への補助事業

で以上に必要と考える」
◇「原発に代わる電源が見出せない。火力発電も環境問題があり、当分の間、原発は必要。技術革新で再生可能エネルギー安定供給の実現を期待している」等と答弁しました。

『原発ゼロをめざす島根の会』 総会&学習会を開催

9月21日(土)、県民会館で「原発ゼロをめざす島根の会・第6回総会&学習会」が開催され、30名が参加しました。前半は学習会として、尾村利成県議員



講演する尾村利成県議

が島根原発をめぐる情勢を講演しました。
尾村氏は、まず県政全般について述べ、丸山県知事の後退や、少人数学級見直しは許されないと強く批判しました。

続けて原発を巡る情勢について述べ、全国60基の原発の状況を報告し、「規制庁の審査修了が15基、9基が再稼働したが、全電力の3%に過ぎない」と説明しました。また、「規制庁は、火山の影響の再調査も必要」と述べていることを紹介し

ました。島根原発2号機も地滑りの危険個所調査が必要とされており、次期総選挙で勝利して原発ストップを勝ち取ろうと訴えました。
総会では、
・原発ゼロをめざす、
・再生可能エネルギー普及に取り組み、
各地で「原発ゼロをめざす会」結成に取り組み等の、
2019年度の活動方針が提案され、新たな役員体制と共に承認されました。
討論では、原発ゼロをめざす雲南の会の活動報告や金曜行動の参加者を広げることなど、取り組みをすすめる発言が続きました。橋祥朗、田中肇両市議は、議会での論戦や現状を紹介しました。



橋祥朗市議

松浦正敬市長は、
◇「福島原発の廃炉は困難な作業だが、国内外の英知を結集し進めてほしい」
◇「再処理工場は竣工に向けて取り組んでほしい。使用済み核燃料処分問題の解決に、国が責任をもって取り組みよう申し入れている。世論調査に関しては、国や事業者が原発について国民の理解を得る努力がこれま

子どもの交通安全対策充実を

橋市議は、子どもの交通安全対策について、
◇「登下校路の危険箇所、幼稚園児の散歩コースの再点検等調査が進められたい。松江市での点検結果や今後の対応はどうか」
◇「窓口は教育委員会や総務部、取り組みは県や市、公安委員会と分かれており、保護者には、自分たちの思いが十分伝わっているか疑問の声もある。関係機関の連携や、現場の思いを取り入れる体制づくりは」と、質問しました。

松浦市長は、
◇「危険箇所は通学路205件、散歩コース337件。学校は7月から、保育園は9月から点検。地域要望はヒアリングを行い、受け付けている。結果は翌年2月から3月に通知、緊急性の高いものから順次実施する」
◇「『松江市通学路安全推進会議』で情報を共有し、通学路の安全対策の充実に努める」と、答弁しました。